

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック
代表取締役社長 稲垣良次

2015. 3
No.259

“人事異動の季節”

イナテックはこの3月・4月は人事異動の時期です。

三菱ケミカルホールディングスの小林社長は「組織が変わらないということは“死”を意味します」と真顔になりました。

「変化に挑む精神を忘れないこと」とおっしゃっています。

また、致知の特集には会社が衰退する理由の第一に「傲慢」をあげています。

自ら培った成功譚にぐぐらをかく時に企業（イナテック）は崩壊します。

また、個人の運命も同じで、傲慢になった時“天はその人の足をすくう”といわれています。

ですから是非、変化（職制変更）の意を理解していただき、強くなってください。

致知特集“未来をひらく”によると、未来をひらくためにはもう一つ学ぶべき条件があるそうです。それは、ローマ帝国が滅亡した理由にヒントがあります。

何世紀にもわたってヨーロッパを治めてきた大
国ローマはなぜ衰退したのでしょうか。

ローマの年間休日には百五十九日あった（現在のイナテックは有給を入れて百四十日、時短をすることで増える傾向にある）といえます。そのうち無料の見世物開催日数は九十三日間あったそうです。次第にその休日が増え二百日となり、建国時の勤勉・質実の精神はどこかへいつてしまいました。

ローマ国民は働かなくなり（現日本は生活保護費増大、医療費、学教材、給食の無料、補助金、有給促進などの諸問題があります）、防衛は外国人にまかせ（現日本はアメリカに守ってもらっています）、そして国全体が墮落してしまいました（現日本は平和ボケしています）。

この三つの悪循環（休日増、労働時間短縮、他者による自国防衛）によってローマは衰退し、滅亡したといわれています。

私には今の日本国の進んでいる方向はローマ帝国と同じように思えてなりません。もう一度日本国民教育を徹底し、一所懸命働く国民性を甦らせる必要があると思います。そして自分の国、自分の会社、自分の家族や家庭が守れる、明るく元気な日本国民なりましょう。ひとりひとりが「守ってもらう」ではなく、「守る」という確固たる責任を担う世界を築きあげ、その世界のリーダーにならねばならないと思います。

“イナテック100年企業をめざして”

愛知県には、百年以上続いている企業が四十一社あるそうです。イナテックも二〇五一年には一〇〇周年を迎えます。

私も今までそんな事考えたこともなかったのですが、このように“未来予想図”を描くと、この目でイナテック100周年を必ず迎え、孫のイナテック社長就任を見届ける覚悟がわいてきました。

私の未来予想図では、二〇三〇年にはTPMワールドクラス特別賞を受賞し、二〇三一年のイナテック八十周年を迎えます。

そして、二〇五〇年には再度TPMワールドクラス特別賞を受賞し、二〇五一年のイナテック一〇〇周年を迎えます。イナテック四代目社長の就任祝が一〇〇周年と同じ時期なのです。

その時にはこの会社にも負けない厳強な基礎を持つイナテックが出来上がっているはずです。

(致知2015年2月号特集“未来をひらく”より)

時代の激流に流されず、その時代、その時代に深く根を張り未来をひらいてきた企業には、どういう特徴があるのか。

老舗を研究してきた田中真澄氏は、老舗に共通する精神を二つ挙げている。

一は、「地味にコツコツ泥臭く」
二は、「おれがおれがの“が(我)”をすてて、おかげおかげの“げ(下)”で生きる」

また、ジェームス・コリンズとジェリー・ポラスは長年にわたり素晴らしい業績をあげてきた会社が衰退する理由の第一に「傲慢(ごうまん)」をあげている。日々培った成功譚にあぐらをかく時に企業は崩壊する、という。

イナテックも、TPMを地道にコツコツ泥臭く実践し基礎を築き、社員やその家族のお蔭、お客様のお蔭、地域の人たちのお蔭と感謝の気持ちを忘れずに生きていくことができれば、イナテック一〇〇周年も夢ではなく、必ず実現できると確信しています。

どうか社員の皆さん、このイナテックのロードマップをご自身の為に使ってください。このチャンスを生かし、TPM・TPS・TQMのプロになってください。

それを社員の皆様に御提供することがイナテックの社会貢献であると私は考えます。

二〇五一年のイナテック一〇〇周年を達成し、みなさんと美酒を味わいたく思います。

二二

趨炎附勢之禍、甚惨亦甚速。棲恬守逸之味、最淡亦最長。

一 炎に趨り——権力のはなはだ強い者に付き従う。柳宗元の文に「吾、今の人に交わる者を観るに、炎に趨り勢に付くのは、甚だ惨にしてまた甚だ速やかなり。恬に棲み逸を守るの味は、最も淡にしてまた最も長し。

一 炎に趨り——権力のはなはだ強い者に付き従う。柳宗元の文に「吾、今の人に交わる者を観るに、炎にして付き、寒にして棄て、よく清の為に類する者あること鮮なし」(宋清伝)とある。「炎」は権力の強いことにたとえた。二 恬に棲み——心の安らかさを住み家とする。「恬」は安らか、静か。三 逸を守る——気ままな生活態度を守る。「逸」は放つ、楽しむ。

権力の強い者に従い、勢力の盛んな者に付くという人生態度のわざわいは、(権勢の座から失脚したとき、当然であるが)、非常に悲惨なものであり、またその報いも非常に早い。(これに反し)、心の安らかさを住み家とし、気楽な生活を守るといふ人生態度の味は、(一時的な濃厚さはないが)、きわめて淡泊であり、またその楽しみも最も永続するものである。